

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

協力的・参加的・体験的な学習を効果的に進めている実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

岡山県笠岡市

○学校名

笠岡市立新吉中学校

○学校のURL

<http://niiyoshi-jh.kasaoka-ed.jp/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】1年生1学級、2・3年生各2学級、【特別支援学級】1学級、
【合計】6学級

○児童生徒数

【全生徒数】136人（平成24年5月1日現在）
（内訳：1年生34人、2年生52人、3年生50人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「生命尊重の精神を基盤に、豊かな人間性を育てるとともに、積極的で創造力のある生徒の育成を図る」

【人権教育に関する目標】

（基本目標）「人権尊重の精神を身につけ、差別に気づき、差別をゆるさない心と態度の育成」

（重点目標）「豊かな人権感覚と人権尊重の実践力の育成」

○人権教育にかかる取組の全体概要

○人権学習

同和問題をはじめとするあらゆる人権問題に対する正しい理解と認識を深め、人権感覚を磨き、一人ひとりが自らの課題として日常生活の中で生きて働く実践力を養う。

○自立支援

一人ひとりの人権を大切にする中で、個々の生徒理解と、課題把握に努める。
全ての生徒に基本的生活習慣と基礎学力の定着を図り、自らの個性と適性を自覚し自己実現を目指そうとする意欲と態度を育てる。

○人間関係づくり

自己理解や他者理解を深める中で、お互いの個性や意見の違いを尊重し、協力して目標達成や問題解決のできる生徒を育てる。

○家庭・地域との連携、学校園間の連携、教職員研修の充実

3. 特色ある実践事例の内容

◆ プロジェクト学習（「プロジェクト新吉」）の取組

（取組のねらい、目的）

総合的な学習の時間において、「共生」をキーワードに、生徒の自主性を尊重したプロジェクト学習を実施し、協力的・参加的・体験的な学習を充実させることにより、共感的に理解する力、コミュニケーション技能や自尊感情等を培い、豊かな人権感覚の育成を図るとともに、課題発見力、情報収集・情報選択力、構想力等を身に付けさせ、人権課題の解決を目指す実践力を養う。

（取組の内容）

学校全体のプロジェクト学習のテーマ（「Dream」）として「誰もが幸せに暮らせる社会の実現を目指して」を掲げ、各学年の視点・領域に基づき、学年ごとに数名の生徒でプロジェクトチームを組み、「Vision」「Mission」「Action」を設定して半年間（5月～10月）かけて取り組んだ。また、その成果等について、ポスターセッションの形式で発表会（「プロジェクト新吉プレゼンテーション」）を実施した。プロジェクトの計画段階から、実践に当たっての外部との交渉なども含めて、全て生徒自身が行った。このプロジェクト学習は平成16年度からスタートし、以後、毎年継続して取り組んでいるが、平成23年度の取組について紹介する。

（1）プロジェクト学習において3年間で取り組む内容

	視 点	領 域
第1学年	思いやり・ふれあい	福祉
第2学年	生き方・生きがい	生活・職業
第3学年	調和・つながり	人・社会・自然

（2）プロジェクトチームが設定した「Vision」「Mission」「Action」の例

プロジェクト名	Vision	Mission	Action
「僕たちの手で高齢者の人たちの手助けをしよう」 （1年生グループ）	公民館などの公共施設が便利になってよりよい施設になったらいいなあ	もう少し工夫した方が いいところを自分たちで改善していく	・公民館などの公共施設で高齢者の人たちのために工夫しているところやもう少し工夫をしたら使いやすくなるところを探して自分たちで改善していく。 ・段差解消の踏み台を作る。
「Power to the people.」 （3年生グループ）	世界の子どもたちに、「知る・学ぶ」喜びを知ってもらえたらいいなあ	支援物資を贈ろう！経済的に厳しいカンボジアへ	・カンボジアについて調べる。 ・ペットボトルキャップの募金活動について考える。 ・ペットボトルのキャップを回収して換金する活動に参加する。 ・集まった募金を贈る。

「A Child Wish」 (3年生グループ)	子どもたちが大切にされる世の中になればいいなあ	子どもの命の尊さを一人でも多くの人に伝えよう！	・虐待について調べる。 ・市役所の福祉窓口の方などにインタビューする。 ・啓発ビデオを制作する。
-----------------------------	-------------------------	-------------------------	--

(3) 発表会 (「プロジェクト新吉プレゼンテーション」) 日程表 (一部抜粋)

1～4校時	1A教室	1B教室	2A教室	2B教室	3A教室	3B教室
第1クール (35分)	Value one's life ～許すな虐待～ (1年生)	車イスの方も暮らしやすい町へ (1年生)	盲導犬について (1年生)	目の不自由な方でも安心して歩ける町へ (1年生)	僕たちの手で高齢者の人たちの手助けをしよう (1年生)	心のつながり～障害者福祉施設の子どもたちと～ (1年生)
休憩・移動・第2クール準備 (10分)						
第2クール (35分)	いじめんサー～人と人とのつながり合い～ (1年生)	人とのつながり～うわさつてなんだろう??～! (1年生)	Communication is a very important matter. (2年生)	What is the purpose of your life? (2年生)	Connection～つながりを大切にしよう～ (2年生)	A job worth doing～生きがいを感じるために～ (2年生)
休憩・移動・第3クール準備 (10分)						
第3クール (35分)	みんなつながれ～幸せへの道のり～ (2年生)	Get the happy future! (2年生)	輪～明るい未来を～ (2年生)	Chain of smile (2年生)	The preservation of nature (3年生)	Power to the people. (3年生)
休憩・移動・第4クール準備 (10分)						
第4クール (35分)	地球に優しいエコ戦士～地球にかわっておしおきよ～ (3年生)	A Child Wish (3年生)	To save ourselves～自分の身は自分の手で～ (3年生)	WITH BRAILLE (3年生)	テロリズムの撲滅 (3年生)	原子力発電と未来の発電 (3年生)



発表会でのポスターセッションの様子

4. 実践事例の実績、実施による効果

(取組の実績)

- ・「高齢者」をテーマにプロジェクト学習を行った1年生のグループは、高齢者の立場に立って公共施設の見直しを行い、段差解消のための踏み台を製作し、地域の公民館に設置した。
- ・「世界の子どもたち」をテーマにプロジェクト学習を行った3年生のグループは、ペットボトルのキャップ800個が子ども一人分のポリオワクチンに相当することを知り、小学校や地域にも活動範囲を広げて約29,000個のキャップを回収し、カンボジアの子どもたちに対するポリオワクチン支援を行った
- ・「児童虐待」をテーマにプロジェクト学習を行った1年生と3年生のグループは、児童虐待防止啓発ビデオを制作し、地域の文化祭会場にビデオ視聴コーナーを設けて、啓発ビデオの上映を行った。



生徒が制作した児童虐待防止啓発ビデオを地域の文化祭で上映

5. 実践事例についての評価

(取組についての評価)

児童虐待防止に取り組んだグループの生徒が「僕たちのグループでは児童虐待について考えました。虐待についてのビデオを制作して保護者の方に見てもらうこと

を考えましたが、できればもっとたくさんの方に見てもらおうと思いました。そこで、グループ全員で意見を出し合い、地域の方にも見ていただくということになり、保育所に出向いてチラシを配布しました。当日は、15人ほどの参加がありましたが、人を動かすことは難しいということを改めて感じました。でも、グループのメンバー全員で達成感を共有することができたと思います。」（一部要約）という感想を記している。また、カンボジアの子どもたちへのポリオワクチン支援を行ったグループの生徒の感想には、カンボジアを支援するNPO法人から、現地の子どもの写真を添えたお礼の手紙が届き、自分たちの活動が人の役に立ったことに喜びを感じたことが記されている。

こうした生徒の感想等から、プロジェクト学習の実施によって、生徒のコミュニケーション力や自己有用感・自尊感情等が培われ、豊かな人権感覚を育むとともに、課題解決に向けた実践力の向上につながったことが伺える。また、生徒が日頃から人権学習に親しむ機会を提供するとともに、主体的な学習活動を通して、生徒同士や生徒と教職員の間の信頼関係に基づく望ましい人間関係づくりが促され、学校全体で人権を尊重する環境づくりを推進することができたと考える。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

笠岡市立新吉中学校

協力的・参加的・体験的な学習の充実を期したプロジェクト学習「プロジェクト新吉」の推進を中心に据えた取組である。指導方法における「協力」「参加」「体験」の重要性は言うまでもないことであるが、本校ではそれらが生徒主体のプロジェクト学習において実践されている点が特筆される。

プロジェクトがめざすテーマは、学年やプロジェクトチームごとに異なっており、それぞれ人権の視点に立ったテーマが主体的に設定され、「Vision」「Mission」「Action」を明確にしながら取組が進められている。しかも、こうした生徒自身による主体的な取組が、平成16年から地道に続けられているところに価値がある。

また、児童虐待をテーマとしたチームにおいては、活動の成果として児童虐待防止啓発ビデオの制作に取り組み、地域の文化祭会場で上映活動まで展開している点が評価される。